

ネクステップ 遺品整理参入

不動産業のネクステップ(札幌)が遺品整理、生前整理事業に参入した。現場に立ち会えなくても安心して利用できるよう、作業の様子をインターネットで中継し、パソコンや携帯電話で見ることができるようにしたのが特徴。関連事業として、依頼主から買い取った家具などの海外への販路拡大も検討している。

遺品、生前整理は、居住者が亡くなったたり、転居したりして、残

された家財道具や衣類などを分別し、廃棄や買い取りを行い、部屋を清掃する事業。道内でも複数の専門業者や「便利屋」などの個人事業者が手がけているが、高齢化が進む中で今後はニーズが高まるため、昨年夏ごろから準備を進めてきた。

他社との差別化を図るため、依頼主だけが視聴できる作業現場のインターネット中継システムを導入。北洋銀行から出資や役職員を

作業、依頼主にネット中継

受け入れており、信用力が高い点もアピールしている。遺品などを整理した後の住宅の販売、賃貸なども行う。

今後は、遺品整理に関連した事業にも力を入れる考え。買い取り額をより高くできるよう、家財道具などの販路を海外に広げることにも検討。ネクステップの水口千秋社長は「離れた場所でも作業の様子を確認できるなど、透明性を高めることで、より安心して利用できる事業を目指したい」と話している。

ネクステップが遺品・生前整理

事業多角化で参入

不動産業のネクステップ(札幌市)は遺品・生前整理事業に本格参入する。少子高齢化の進展でニーズが増えるとみて、事業多角化の柱にする。不動産仲介や遺品買い取りもして、今後2〜3年で1億円程度の売り上げを目指す。

同社の遺品・生前整理

事業は、整理後に住宅の売却・賃貸の仲介サービスを手がけるほか、3月から遺品の買い取り専門店も経営して貴金属や家具などをワンストップで買い取れるようにするのが特徴。依頼主が作業当日に立ち会えない場合は、ジャパンメディアアシスタム(東京・千代田)のシステムを使ってインターネット中継するサービスも提供する。

同社は北洋銀行と連携して法人向けの不動産仲介事業を手がけている。